



# 園だより7月号

平成 29 年度  
福)五和会  
五和保育園

五和保育園ホームページ リニューアルされました。子ども達の姿もあります。見て下さい！

子どもの心をしっかり受け止める！ 受け止められて、不安や心配を乗り越えられる！！

6月17日年長児のキャンプ説明会がありました。そこで私がお願いしたことは、「キャンプに向かうお子さんの気持ち(期待・不安)をしっかり聞いて紙に書いてあげて下さい」でした。園としては「**自立心・協同性・自然との関わり・言葉による伝え合い**」等、教育の目標があります。その目標に向かって活動できる**子どもの心を支えるのはご家庭です**。「夜、一人で寝るのがイヤ」「おねしょしちゃったら、どうしよう」「一人で支度できるかなあ」子ども達の心は、期待と伴に不安もいっぱいあるのです。

=====  
 心配していること  
 ・お風呂 → ① 温かいお湯に入りたい、② ぬいぐるみなど入るといい。と  
 お風呂に寝てほしい。④ ニッコリ  
 ・あるとき → 早く寝れば大丈夫だと自分言った(トイ) → 夜更かして寝てはいないかと不安  
 ↓  
 先生と話をねお  
 寝かしてほしくないこと  
 ・おんね(おねしょ)  
 ・車道(クルマ) → 音がしたくない、手も振らないで、赤い信号は止まる  
 ・山の家のおやつ(ツブス) → みかん(ツブス)がおいしいね  
 あり  
 =====

言葉を書き留めるって、  
子どもの心を受け止めた証拠！！  
そんな気持ちをちゃんと受け止める時間を作って下さったお宅が何件もあり、書き留めた A4 の紙を提出して下さいました。H君とお母さん、そしてお姉ちゃんお兄ちゃんて時間を取ってくれたようです。  
言った言葉を書き留めて、心を受け止めてもらった Hちゃん。とっても嬉しかったと思います。

Mちゃんのお宅でも、紙に書きながら気持ちを聞いてくださったようです。ところが、楽しみなんだけど、「寝るのがいや」は「いやー」になってしまったそうです。素敵なのが、その時は「そっかー、嫌なんだね」で終わってくれたこと。「その後どう？まだ嫌って言うてる？」と Mちゃんのお母さんに聞くと、「なんか、何にも言わなくなって、楽しみの方がいっぱいになったみたい」と答えてくれました。きっと、「嫌」を受け止めてもらった安心感が、「不安を乗り越える力」になったのかなと思っています。5歳児の発達に「〇〇だけれども、△だ！」と自分の心やお友達を多面的に考える力が育ってきます。不安だけれども、お友達と乗り越えようとする子どもの発達を支えるのは、「聞いてもらえる」「支えてもらえる」安心感です。



アクティー森で、染め物体験をします。まず、自分たちで、玉ねぎの皮で染めてみました。

この「不安を乗り越えた」「友達と乗り越えた」経験をした子どもたちの「少し誇らしげな顔」は、本当にいとおいしいのです。キャンプって皆様の大切なお子様の命をお預かりしていくので、私たち保育士は、地震は来ないか等本当に心配がいっぱいなんです。でも、この一つ乗り越えた成長した子どもたちと今年も出会えると思うと、今年もまた、頑張ろうと思っています。



おやつ(ゼリー)。自分で、ころてんツキで作りました。

## PTA 講演会 親も「親になるために学ぶ」

恒例のPTA講演会が行われました。五和保育園のPTAの素晴らしさはこの講演会がしっかり伝統で続いていることです。子どもを産んで、親も親になれるのです。子どもも人として成長するために日々学んでいます。親も「親になるために学ばなければいけない」と私は思っています。そして、正しく学ばないと、ネットで得た情報で「離乳食ではちみつを与えて、自分の子どもの命を失ってしまった」ような事例になるのではないのでしょうか。

今年は、静岡の子どものお店「百町森」の店主柿田氏に来ていただきました。百町森主催の保育士向けの夏の研修会は全国から集まり、会場はいっぱいです。ただ、おもちゃを売るのではなく、子どもにとっての意味合いもしっかり分かっている方です。話題の将棋の藤井颯太 4 段の小さい頃から遊んだ立体的木キューボロ(すごーい人気らしいですよ)も見せていただきました。次の日、百町森では五和保育園の子どもたちと保護者の方が鉢合わせする場面もあったようですよ。

小学校は「伝達による教育」その土台となる幼児期は「教え込むのではなく、文字や数につながる遊びをとことんやる事」「遊びの中で、数や量の体験をすること」と繰り返し語って下さいました。そして、いいおもちゃと出会うことの大切さを教えていただきました。また、子どものしたい気持ちと、それが社会的にしつづけるにつけて良くないとき、気持ちをおもちゃで満たす工夫も教えていただき、うなずきながら聞いていた保護者の方の姿が印象的でした。

聞けなかった保護者の方々も是非お店に行ってみたらいかがですか？





